

# ワークショップ【A班】 報告

【平成24年9月14日（金）】

参加者： 上中主査

西川 卓生、佐古田 瑛子、中島 均  
今井 弥生、田淵 公子、内藤 秀俊

## ●テーマ1：どのような育て方をしているか。

内 容：「ヒュウガミズキ育苗場所」「ヒュウガミズキ観察記録表」のまとめを基に意見交換を進めていく。

### 1 土

鹿沼土は乾くと白くなり、水持ちが良い。鹿沼土+赤玉（鹿沼土+畑の土）にすると苗の元気が良い。蛇紋岩にはリンが多く含まれている。

### 2 場所

朝陽が当たり、昼間は日陰になる場所が良い。土の上が適しており、コンクリート上では打ち水をする必要がある。

発砲スチロールの容器は夏場は適さない。虫（毛虫等）を発見し次第、除去する。

### 3 促進剤

小さめの促進剤を使用したけど、効果は確認できなかった。

### 4 枝の大きさ

ある程度の大きさが必要である。

### 5 水やり

表面（鹿沼土）が白くなったら、割り箸を挿して濡れてなかったら水やりをする。

### 6 肥料

ある程度の大きさになってから与える（油かす等）。遅効性の肥料が効果的である。

### 7 葉を切る

小さな枝は葉切りをすると良い。

### 8 植替え時期

越冬は出来る。（庭先でも自然の中では、雪に負けない。）

時期、方法： 涼しくなってから、葉を三分の一程度落としてから植え替える。  
土は鹿沼土+赤玉が良く、根がからんでいるうちに行う。

### 9 その他

実は青や茶色で水に浸すと四つほど種が入っている。

## ●テーマ2：どんな取り組みをしたらよいか

内 容：育苗隊として次年度以降にどんな取り組みが出来るか

### ①管理の仕方（どこに、どの様に植えるか）

酸性が強い所、蛇紋岩、ポット（成長が早い様に感じられる）、直植え  
休耕田を利用して皆で管理する、6年間色々な植え替えを試す。

### ②育苗に詳しい人（先生、植木屋さん）を招く。

# ワークショップ【B 班】 報告

【平成 24 年 9 月 14 日（金）】

参加者：今井補佐

仕名野 裕、足立 桂子、赤松 武司

岩佐 隆、青山 育子

## ●テーマ 1：どのような育て方をしているか。

内 容：「ヒュウガミズキ育苗場所」「ヒュウガミズキ観察記録表」のまとめを基に意見交換を進めていく。

### 1 土

鹿沼土だけの方が保水、排水共に良い。

赤玉を混ぜてみたが、鹿沼土だけの方が良かった。根がつくまで畑の土は難しい。

### 2 場所

土の上の方がコンクリート等より良い。

日が当たる事が必要である。1 日中日が当たるのは逆に良くなく、夏は日差しが強すぎるので注意が必要である。

水につけたままでは育たない。水はけが良い方がいい。

落葉までは日に当てる。

### 3 促進剤

液状の促進剤を使用したけど、効果は分からない。使用しなくても根は付いた。

### 4 枝の大きさ

小さい枝はしおれた。新芽だけの苗は枯れた。

太く大きい方が枯れずに成育が早く良い。太い苗が良いが、小さくても根はつく。

### 5 水やり

1 日 2 回水やりした人が多い。発根してからは、案外乾燥には強く多少間隔をおいても問題は無い。

根が出る 1 ヶ月程はしっかり水をやり、根が出たところからは発根の為には多少控えた方がいい。

### 6 肥料

新芽が出たところから、薄めた液肥を与える。(パラパラエース、メネデール)

落ち葉は除去せずに肥料として使用する。秋にパラパラエースを与えてはどうか。

### 7 葉を切る

やった人はいないが、そこまでしなくても発根した。

### 8 植え替え時期

10 月の落葉後ぐらいが適当。畑に植え替えたなら大きくなる。

### 9 その他

火事で傷んでしまったが芽が出だした。強いものであることが分かった。

大きい個体を選ぶのか、数量を多くするのかによって方法が変わってくる。

枝取りは早い方がいい(4 月ぐらい)

●テーマ 2 : どんな取り組みをしたらよいか

内 容 : 育苗隊として次年度以降にどんな取り組みが出来るか

・ 隊員の活動

隊員数を増やす。特に会社関係を増やす。本年度の要領で育苗を継続する。

山を見て回ったが種は見つからない。種から苗をとるより挿し木の方が効率が良い。